

氏名	上山 和子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博乙第4526号
学位授与の日付	令和2年9月25日
学位授与の要件	博士の論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文の題目	病児保育（クリニック併設型）における家庭療養（Home Care）への看護実践と支援の実態に関する研究－全国調査から－
論文審査委員	教授 森本美智子      准教授 芳我ちより      准教授 沖中由美

### 学位論文内容の要旨

本研究は、病児保育（クリニック併設型）に関わる看護職の実践内容を明らかにし、病児保育を活用した家庭療養の看護支援への示唆を得ることを目的とした。研究方法は、病児保育（クリニック併設型）に従事している看護職を対象に、看護職の実践内容、病児保育に必要な知識・技術、コミュニケーション・スキルについて質問紙にて横断的調査を実施した。回収率は、45.0%であった。施設の特徴として小児科単科のクリニックに併設された施設が57%であった。看護職の平均経験年数は20.6（±9.4）、病児保育経験年数6.3（±4.4）であった。病児保育の看護職の実践内容では、「子どもの特性に基づいた観察」「子ども・家族とのコミュニケーション」「子ども・家族への家庭療養に向けた指導」「感染症に対応した療養環境調整」の4つの因子が確認された。コミュニケーション・スキルでは「他者受容」が最も高かった。以上より、病児保育に関わる看護職は、子どもの特性を考慮した観察と家庭療養に向けた指導を実践し、特性として他者受容が高いことが示唆された。

## 論文審査結果の要旨

病児保育の場には、保育を専門とする保育士と看護を専門とする看護師がおり、協働が求められている。一方で、病児保育における看護の専門性、役割とは何かが問われている。本論文は、病児保育を行っている8名にインタビューを行い、病児保育に関する「看護実践」内容を抽出したうえで、質問紙を作成し、実施された研究である。

病児保育の「看護実践」内容に着眼し、全国調査により、その実態の把握を試みた点に新規性はある。しかし論文には、先行研究の到達点や本研究の意義の論述が十分に示されていない。また、研究対象としてクリニック併設型の病児保育施設が選択されているが、研究背景との整合性も乏しい。「看護実践」に関する調査項目は、インタビュー調査をもとに作成されたものであるが、「看護実践」の定義自体が示されておらず、研究としての厳密性についても疑問をもたざるを得ない。結果の解釈においても、論理の飛躍がある。

審査員は、上記を含め、論文内容およびこれに関連する事項について試問を行ったが、研究方法、結果の解釈において明確な回答を得るには至らなかった。ただし、本論文はピアレビュー誌に査読を経て掲載された論文であり、その評価基準に限っていえば博士論文の要件を満たしている。